

## Ⅱ-11 入 浴

### ○要点

- 1 入浴前後の状態観察。
- 2 熱傷の予防。
- 3 溺水の予防。
- 4 転倒・転落の予防。
- 5 バックバルブマスクと吸引器の準備。
- 6 入浴機器の正しい取扱い。

入浴

エラー発生要因	事故防止対策	留意点
<p>1. 機器の整備点検の不備</p> <p>2. 機器についての知識不足</p> <p>3. 環境整備不足</p> <p>4. 準備不足</p> <p>5. 知識・技術の未熟                      ・筋力のない患者                      ・緊張の強い患者                      ・気管切開患者                      ・変形の強い患者                      ・循環動態に変化が起りやすい患者</p> <p>6. 観察不足</p> <p>7. 温度調節の不備</p>	<p>浴室の環境を整える</p> <p>①周囲の環境を整え、移動に必要な広さを確保する。                      ②物品は定位置に置いて整理整頓を行う。                      ③湯の温度を確認する。                      ④床、手すりを確保する。                      ⑤マットは滑りにくいものを使用する。</p> <p>機器の整備・点検の確認</p> <p>①使用前後の点検を行う。                      ・エレベートバスの作動確認                      ・ミストシャワーの作動確認</p> <p>②月1回定期点検を看護師が実施する。                      (エレベートバス・ミストシャワー・入浴ストレッチャー・シャワーチェア)</p> <p>③混合栓の温度調節に不備がないか確認する。</p> <p>エレベートバス・ミストシャワー操作の技術習得</p> <p>①配置換えおよび新採用時は使用方法の説明を受け、操作技術を習得させる。                      ②使用方法の熟知</p> <p>緊急時の準備</p> <p>①人工呼吸器装着患者・気管切開患者・痰の多い患者の場合は、吸引器、バックバルブマスク・酸素吸入設備を準備する。</p> <p>患者の状態を把握し介助する</p> <p>①リスクの高い患者は、原則として2名で行う。                      ②認知障害のある患者は、一人で放置しない。                      ③気管切開患者の場合は上体を15度挙上する。                      ④常に声かけしリラックスさせる。</p> <p>入浴におけるリスクを把握し介助する。</p> <p>①転倒・転落、溺水、熱傷を念頭に置き観察する。                      ②常に患者の顔色・状態を観察する。</p>	<p>・スクリーンやカーテンを使用し、プライバシーを保護する。</p> <p>・患者の状態に応じた機器を使用する。                      エレベートバスによる入浴の場合は、原則として2名で行う。                      ・ホース等に踏かないように整理整頓する。                      ・緊張の強い患者にはエレベートバスは使用しない。</p> <p>・ストレッチャーは狭いので麻痺等のある患者の身体の固定に留意して手などストレッチャーから下がらないようベルト等で固定する。</p> <p>・体を洗っている時は、体が浮いたり滑りお湯の中に沈みそうになる等予測されるので患者の全身状態を把握して安全に心がける。</p> <p>・患者の挿入されているチューブ類に注意して固定を工夫する。</p> <p>・気管切開患者や痰の多い患者は、入浴前に吸引を行う。                      入浴前後、入浴中は常時、気道の確保に留意する。</p> <p>・部屋係と浴室係に分けお互いに声かけし連携を図って安全で快適な入浴に心がける。</p>